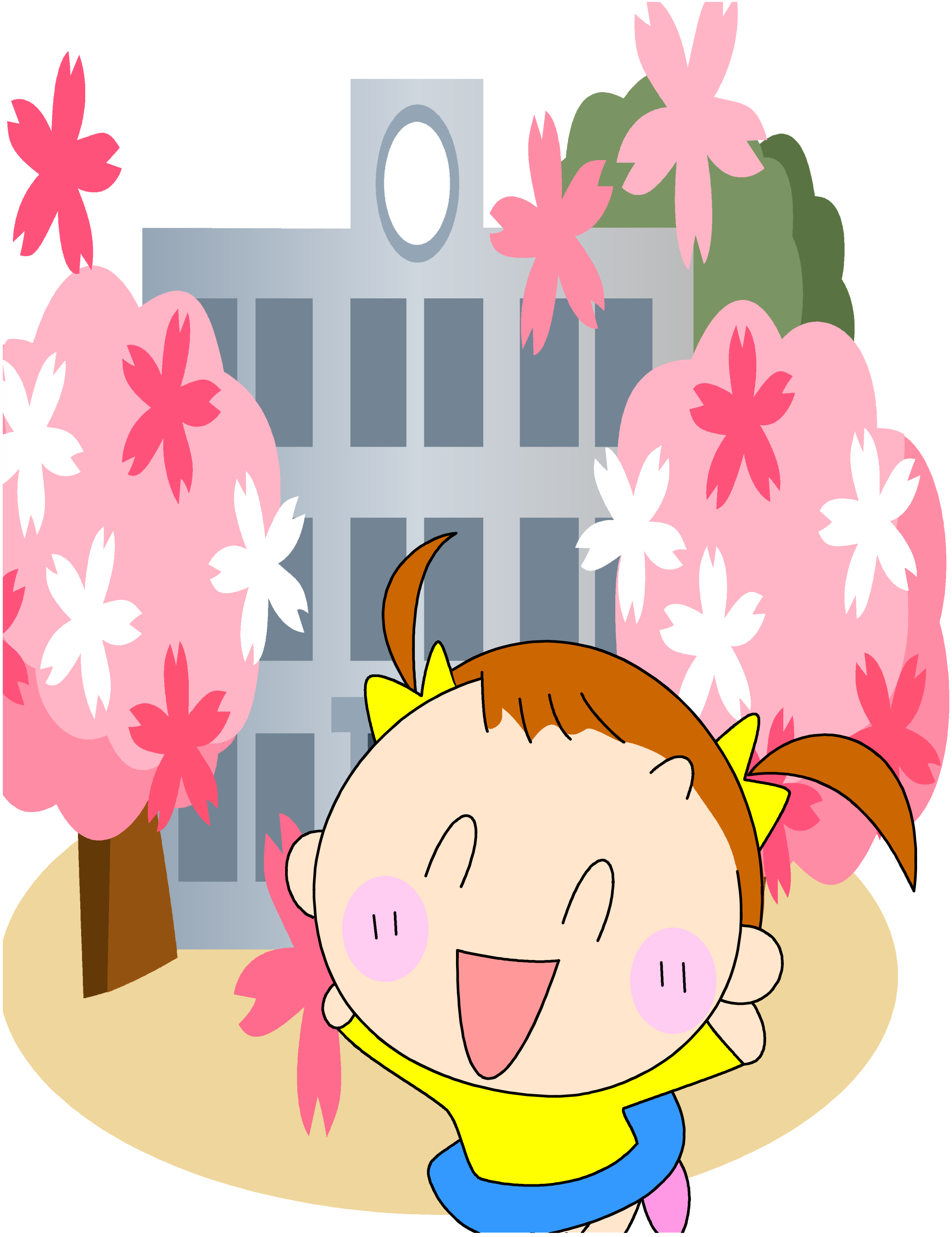
うしくでびっくり!

NO55

なぞのふだしょのまき

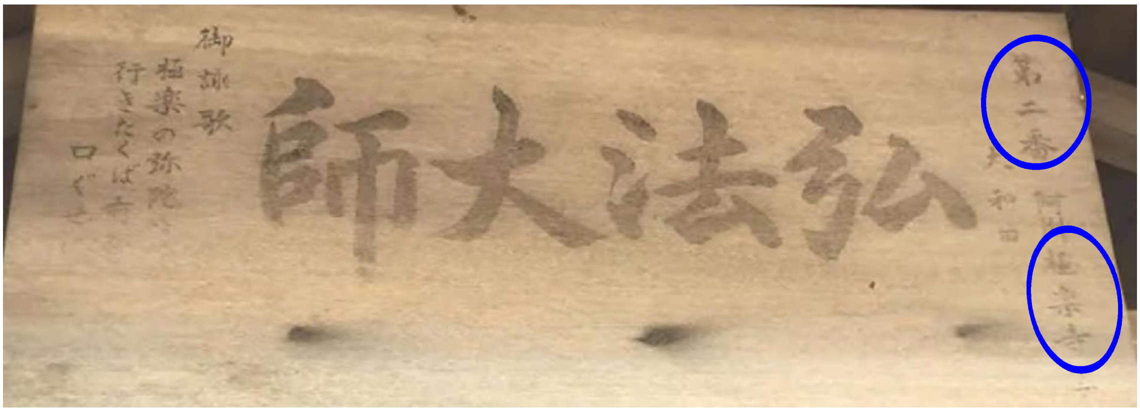
おくの地区社協
ぶん.え　いいだ　あきお

なっちゃんは、おくののしょうがくせい。



　あるひのこと。おかあさんと大和田（おおわだ）をさんぽしているとおはかのいりぐちに祠（ほこら）が２つあった。

そこに　こんなかんばんがあった。



なんの**かんばん**なの？

ここに札所（ふだしょ）が、２つあったらしいんだ。

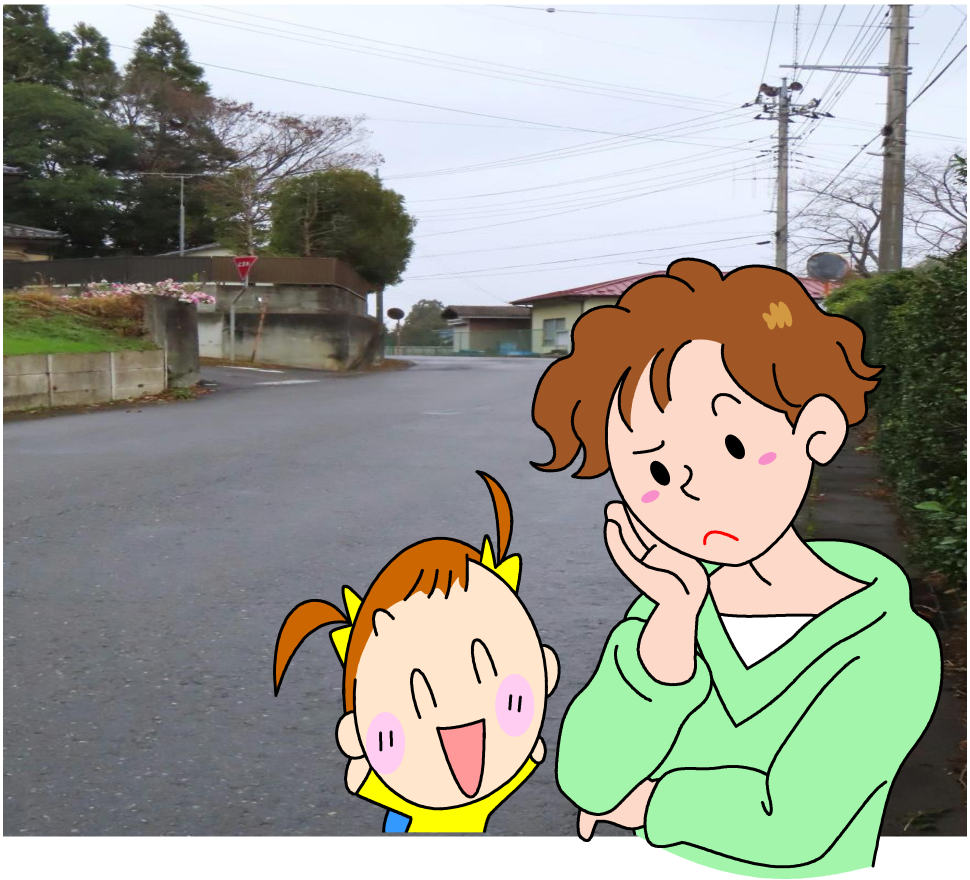
びっくり！

※　かんばんのみぎがわに「第（だい）２番（ばん）」とかてあるが、どういういみなのかな？

※　もういちまいのかんばんには、「第（だい）５番（ばん）」とかいてあるが、どうしてかな？

※　「極楽寺（ごくらくじ）」とかいてあるが、ここにおてらがあったのかな？

「札所（ふだしょ）って、なーに？」

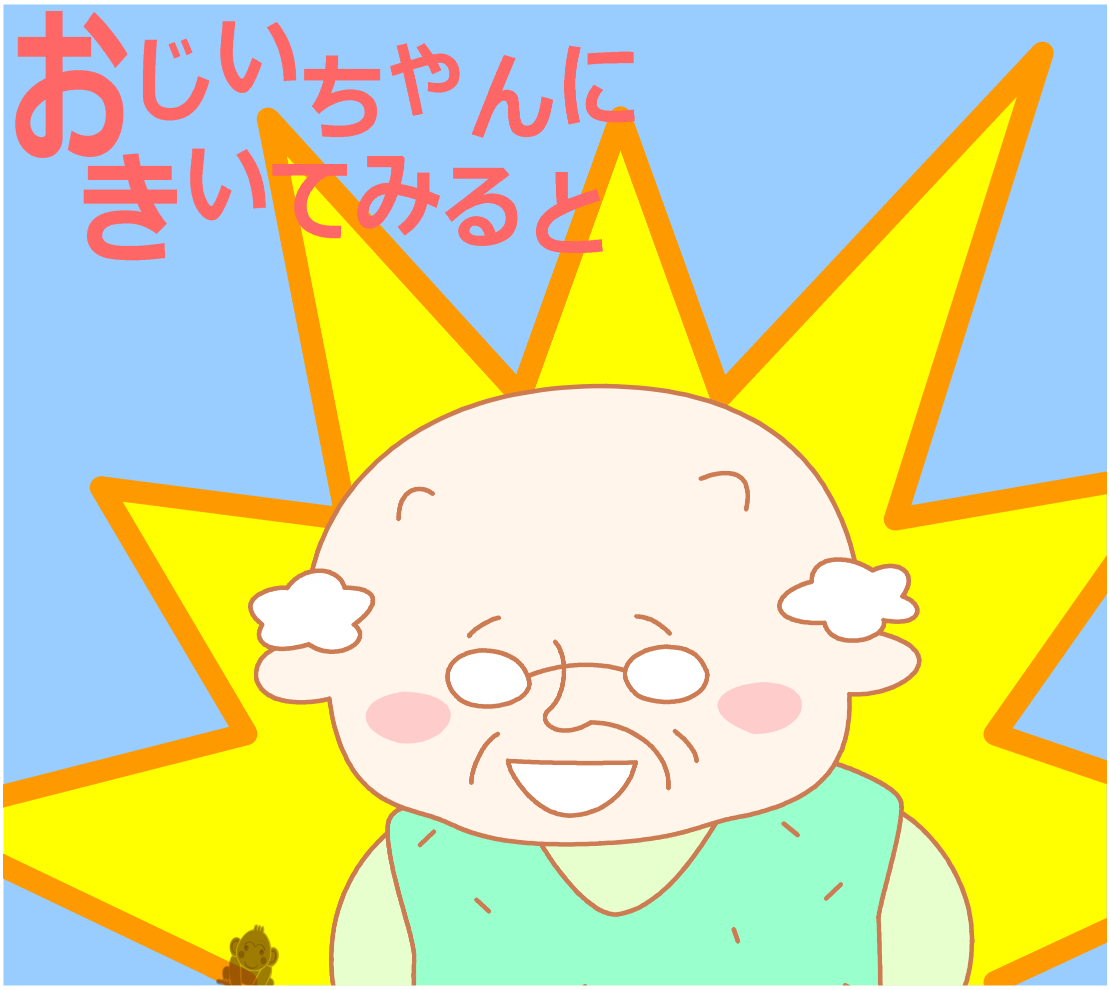


「ん～。わからないわ・・・。
おじいちゃんに　きいてみれば
・・・。

　なっちゃん、おじいちゃんに　きいてみることにした。ものをよーくしっている　おじいちゃんが、だーいすき。

　あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？

わたしは、なぜなぜでーす。



「札所（ふだしょ）ってね。巡礼者（じゅんれいしゃ）（聖地（せいち）や霊場（れいじょう）、寺院（じいん）をおがんで、まわるというひと）が、そのじいんをさんぱいしたしるしに、ねがいごとやじゅうしょ、せいめい、生年月日（せいねんがっぴ）をしるした「札（ふだ）」をおさめたところなんだそうだ。

へー

そうなんだ

ごしゅいんじょうみたいなもの？

そうだね。

　くわしいことは、あきおさんにきいてみよう。いっしょにいってあげるよ。

わくわくドキドキ

　やくそくのひ、あきおさんのいえにいった。さっそく、なっちゃんがきいてみた。

大和田(おおわだ)に札所(ふだしょ)がある ってどういうこと？

「わたしも　わから
なかったんだ。そこで
いろいろしらべてみ
たんだ。でも、わからなかっ
た」
　そこで、くちょうさんにきい
てみたら　むかしのこ
とをよーくしってい
るおじいちゃんにき
いてくれたんだよ。

それによると

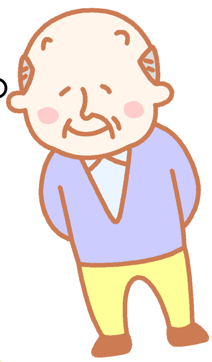
むかしむかし。大師まいり（3がつから4がつはじめの１０日間、うしくないがいの弘法大師の札所めぐりをした）が、あったんだ。

なんでも、まいにちではないが、雲国寺や観音寺のそうもいっしょにあるいたんだ。

（観音寺）

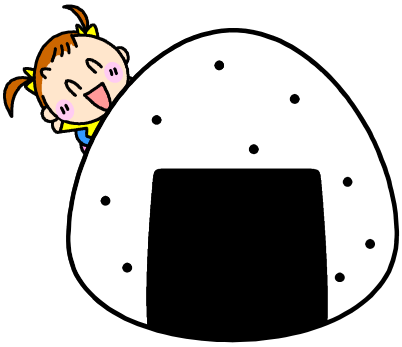
明治時代（めいじじだい）には、１にち３・４かしょ、１０日間（かかん）まいにちあるいてまわったんだ。

とまるところは、みんか。むらのだいひょうのいえや井ノ岡地区（いのおかちく）が、とめるちくになったこともあった。



　１０にんくらいのひとが、いっしょにまわった。そのなかのひとりは、せなかに弘法(こうぼう)大師(たいし)のぞうをかついでまわったんだ。

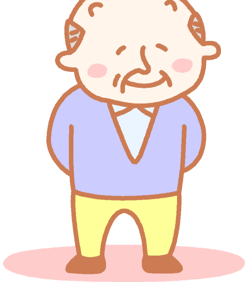
　せんとうのひとが、ほらがいをふき、あとのひとは、それについてあるいたんだよ。



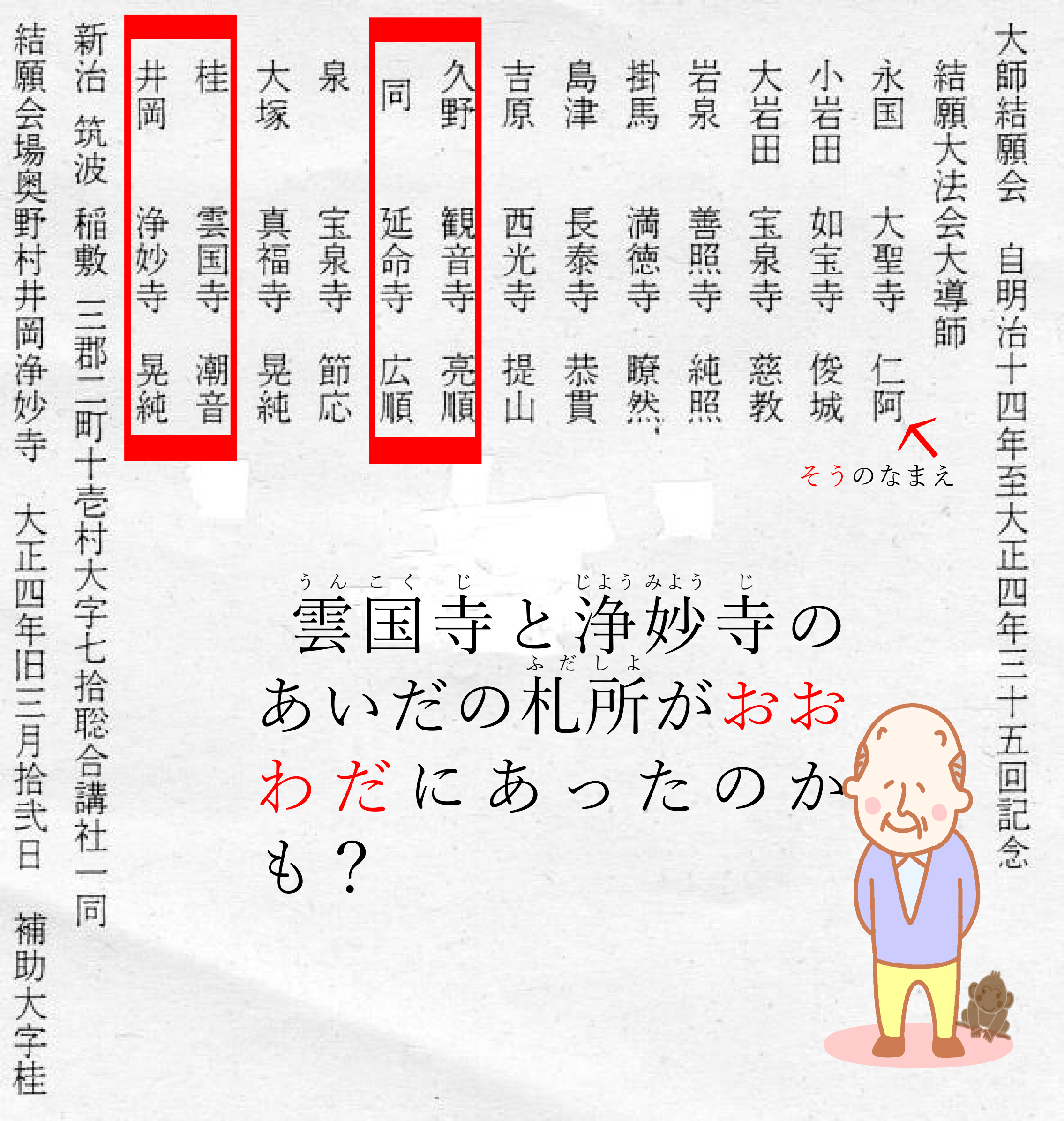
　かくちくをまわるとちくのひとが、おにぎりやちゃがしをだしてくれた。１０日目(かめ)さいごにまわるところは結願(けちがん)といって、はなびをあげたり、おみせがでたりした。

いのおかの浄妙寺が、結願になったこともあった。なお、浄妙寺には、１９１５ねんのさんかした寺と僧をかいた結願きねんのがくが、あるんだよ。これだ！

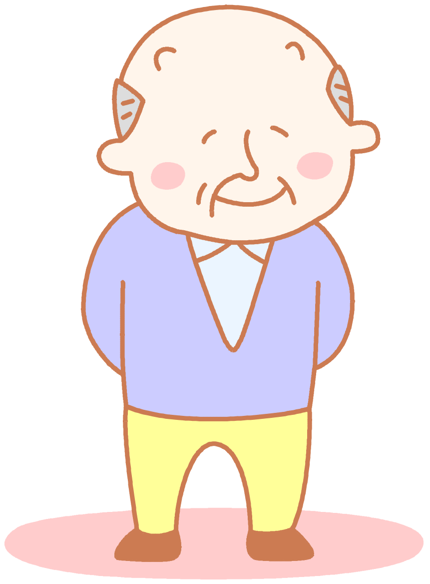
なんてかいてあるの？



こんなことが、かいてあるんだよ。


大師結願会　自明治十四年至大正四年三十五回記念
結願大法会大導師
永国　大聖寺　仁阿
小岩田　如宝寺　俊城
大岩田　宝泉寺　慈教
岩泉　善照寺　純照
掛馬　満徳寺　瞭然
島津　長泰寺　恭貫
吉原　西光寺　提山
久野　観音寺　亮順
同　延命寺　広順
泉　宝泉寺　節応
大塚　真福寺　晃純
桂　雲国寺　潮音
井岡　浄妙寺　晃純
新治　筑波　稲敷　三郡二町十壱村大字七拾聡合講社一同
結願会場奥野村井岡浄妙寺　大正四年旧三月拾弐日　補助大字桂

札所は、あみとかふくだまでと　ひろいはんいにあったんだ。



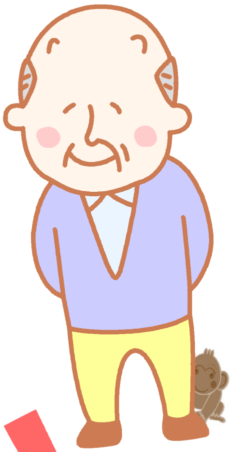
びっくり!

この大師まいりは、60ねんまえごろ（昭和のはじめごろ？）までおこなわれていたんだよ。
なっちゃん

びっくり!

あきおさんは、つづけて、
はなしてくれた。

さらに図書館（としょかん）で
しらべてみて

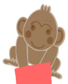


びっくり!

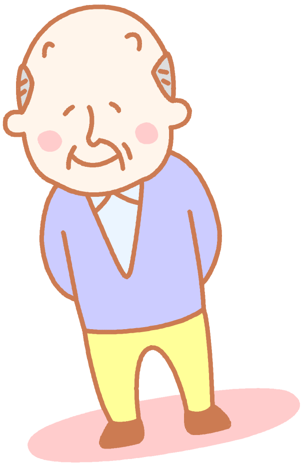
　四国（しこく）の霊場（れいじょう）めぐりと　おなじことをこのちいきでおこなっていたんだよ。

　また

びっくり！



なんでも　浄妙寺のけいだいに大師像が、４たいまつられて、霞ヶ浦南部新四国８８かしょの大師霊場のひとつになっているとか・・・。

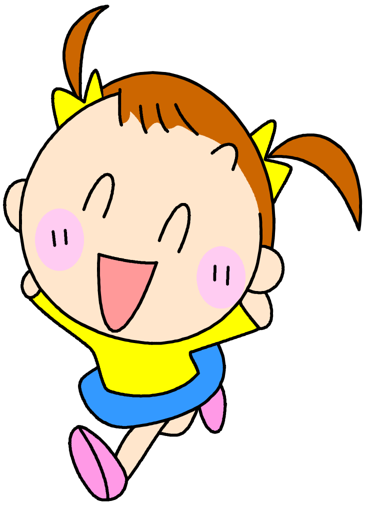


またまたびっくり！

　この大師(だいし)めぐりのなかに浄妙寺(じょうみょうじ)（いのおか）や雲国寺(うんこくじ)（かつら）・観音寺(かんのんじ)（くの）・延命寺(えんめいじ)（くの）などがはいっていることから　そのなかの一(ひと)つが、大和田(おおわだ)の札所(ふだしょ)ではないか・・・。

びっくり！

そうだったのか！



　ということは大和田（おおわだ）の札所（ふだしょ）は、大和田（おおわだ）のひとだけでなく、おくののひとたち、いや、ほかのちいきのひとたちが、しあわせをねがって、あるいたところだったんだ。

びっくり！

　この札所（ふだしょ）にそんなれきしがあったんだ・・・。
　なっちゃんのめになみだが・・・。

　そして、あきおさんにおれいをいって　かえっていった。

どういたしまして
ありがとう
ございました

　こうして、なっちゃんは、大和田（おおわだ）の札所（ふだしよ）が、おくののたからものの一つだということが、よーくわかった。

　こんどは、なにを
　　しらべようかな？

　あれあれ？「すごーくたのしかった」と　なぜなぜくん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら　かえっていった。

またね

参考文献　小坂・井ノ岡の民俗
　　　　　大和田地区長老の話